



# 宇和島城通信 4

2010.06



今年の2月に本町追手2丁目で、遺跡の確認調査をしました。本町追手は、その名のとおり、江戸時代、城正面口となる、追手門があった場所です。過去に数か所、本町追手のあたりで調査しましたが、いずれも追手門に関する発見はありませんでした。今回、はじめて発掘調査により追手門跡の一部が確認することができました。

**【上の写真】** 戦災前の追手門の写真です。現在の丸之内和霊神社前あたりから撮影したもので、裏側を撮ったものです。ご記憶にある方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

昭和20年7月12日の宇和島空襲で焼失してしまう前は、国内に現存していた城門の中でも最大級ものだったといわれていました。

**【左の写真】** 今回の調査で検出された根石（最下段の石）で、11石を確認しました。大きいものでは一辺が1mを超えるものもありました。この石垣の特徴から、慶長元～6（1596～1601）年の藤堂高虎の築城時に築かれたものと考えています。



# 旧国宝 追手門跡見つかる！

追手門は宇和島城に残る数少ない建物として、昭和9年に天守と一緒に当時の国宝に指定されましたが、昭和20年7月12日の宇和島空襲で、焼失してしまいました。そして、昭和24年にその指定が解除され、昭和26年には戦災復興のために市街地化され、その片すみに石垣に使われていたと思われる石が、記念碑としてひっそりと立っています。その後は民有地や市道として使用されてきましたが、今回60年ぶりに、その一部が姿を現しました。



昭和26年の記念碑



戦災後の追手門

## ◆追手門って何？

城の正門という意味を持ちます。大手門とも書かれます。宇和島城の追手門は、櫓門という形式の門となります。ちなみに、“おたもん”と呼ばれていた方もいらっしゃるかと思いますが、これは“多聞(多門)”から転じたものではないかと思えます。多聞というのは、城の用語では石垣の上に築いた長屋造りの建物という意味です。絵図にも“御多門”と記されていて、おそらく、櫓の部分のことを指して呼んでいたことが推察できます。



明治初期の追手門正面

今の様子

手前にはまだ堀が埋め立てられず、土橋がかかっています。その土橋の端にはかざら石(縁石という意味だそうです)が見えますが、これは天赦園に入っすぐの辺りに数石、移設されています。

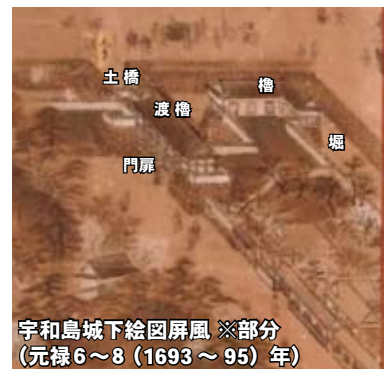
## ◆櫓門ってどんな門？

櫓門は、言葉のとおり、門の上に櫓を渡した2階建の城門で、その櫓は渡櫓と呼びます。当時の戦法では、絶対に破ることのできない究極の構えでした。渡櫓の窓から射撃し、門扉まで攻め寄せた敵には、その頭上に開く石落で攻撃しました。また鯨瓦を飾ることのできる格式の高い門でもありました。

宇和島城の追手門は、門の両側に石垣を築き、その上に櫓を渡している構造です。



宇和島城絵図 ※部分 (正徳元(1711)年)



宇和島城下絵図屏風 ※部分 (元禄6~8(1693~95)年)

## ◆十萬石には過ぎた門？

宇和島城の追手門は、その規模の大きさから、“十萬石には過ぎた門”だといわれていたそうです。昭和9年の国宝指定されたときも、“すこぶる大である”と評価を受けていたほどです。あらためて昔の資料を調べると、追手門の規模を示す資料を見つけることができました。

- 渡櫓 ⇒ 桁行 12間 (約24m) / 梁間 4間 (約8m)  
高さ 4間5合 (約9m)
- 石垣 ⇒ 高さ 2間6~8合 (約5.2~5.6m)
- 門扉 ⇒ 幅 3間6尺 (約7.8m)

※1間=6尺5寸=約2mで計算しています。  
※“合”は、普通は長さの単位には使いませんが、“1間の何割”という意味で使用されたと考えられます。

現存している他城の同じ種類の門をいくつか挙げてみました。これを見ても、宇和島城の追手門が大きなものだったことがわかります。

- 高知城大手門：桁行11間／梁間4間
- 丸亀城大手一ノ門：桁行13間／梁間3間
- 二条城二の丸東大手門：桁行12間／梁間3間



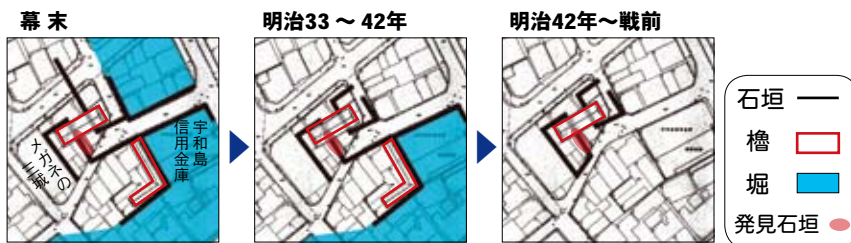
二条城二の丸東大手門

### ◆ 調査で分かったこと

今回の調査は、土地を所有されている方からの遺跡の確認依頼を受けて、実施しました。発見された部分は、正面向かって左側の石垣の通路側部分の根石と呼ばれる一番下の石になります。11石、長さ約11.5mにわたって、きれいに並んで出てきました。今回の発見で、分かったことは2つです。

#### ① 追手門の場所がはっきりし、周辺にも石垣が残されている可能性が高くなったこと

当時の追手門周辺の様子が、大体分かるようになりました。追手門の範囲は、メガネの三城宇和島店辺りから宇和島信用金庫本店まで広がるようです。



明治42年の追手門正面

堀が埋め立てられ、櫓や石垣が取り除かれています

#### ② 建築年代の推定できる新しい材料ができたこと

今回発見した石には、石を割るための楔（矢）を打ち込む穴（矢穴）がいくつか確認でき、幅10～12cm・厚み3cm・深さ10cm程度で箱型のものでした。これは藤堂高虎が築城した城には共通して見られるものらしく、櫓の外観も柱が露出する古式のものであることから、追手門は慶長初期に建てられていた可能性が高くなりました。



大きな箱型の矢穴

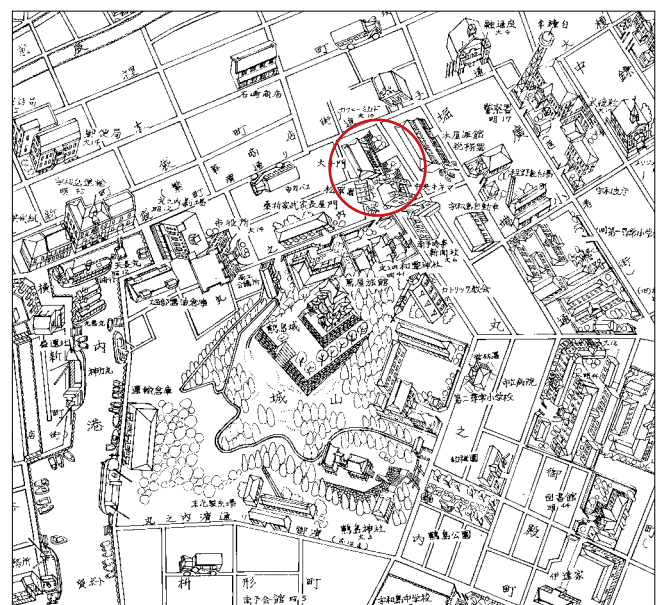
### ◆ 追手門は身近な存在

追手門は、お城下の戦前生まれの方たちにとっては、馴染み深いもの、生活に密着したものではありませんかと思えます。

城山は昭和24年になるまで開放されておらず、天守は山裾から仰ぎ見ることしかできませんでした。右の絵図は、昭和60年に兵頭喜明さんという方が昭和初期の城下を描いたものの一部ですが、これをみると、当時の様子がよくわかります。

追手門が市街地にあって、門を通る道は市道として利用され、近くには映画館や公園もあり、追手門にまつわるエピソードの1つや2つは、当時の皆さんであれば、お持ちではないでしょうか？

今回発見された石垣をどう保存すればよいのか、文化庁や有識者の方々の意見を聞きながら検討していますが、現地説明会を計画していますので、皆さんからのご意見も聞かせてください。



昭和初期の街のたたずまい 兵頭喜明作 ※部分



# お城・お知らせ・瓦版

## ◆追手門跡現地説明会のご案内

下記の日時で、現地説明会を開催します。ぜひ、ご参加ください。

【日時】6月13日(日) ①10:00～11:00 ②13:00～14:00  
 ※同じ内容の説明会を2回開催します。

【集合場所】桑折氏武家長屋門前 ※駐車場は城山下駐車場など有料駐車場を利用ください。

【申込み】当日の混雑をふせぐため、事前にお電話で、氏名と希望時間をお知らせください。

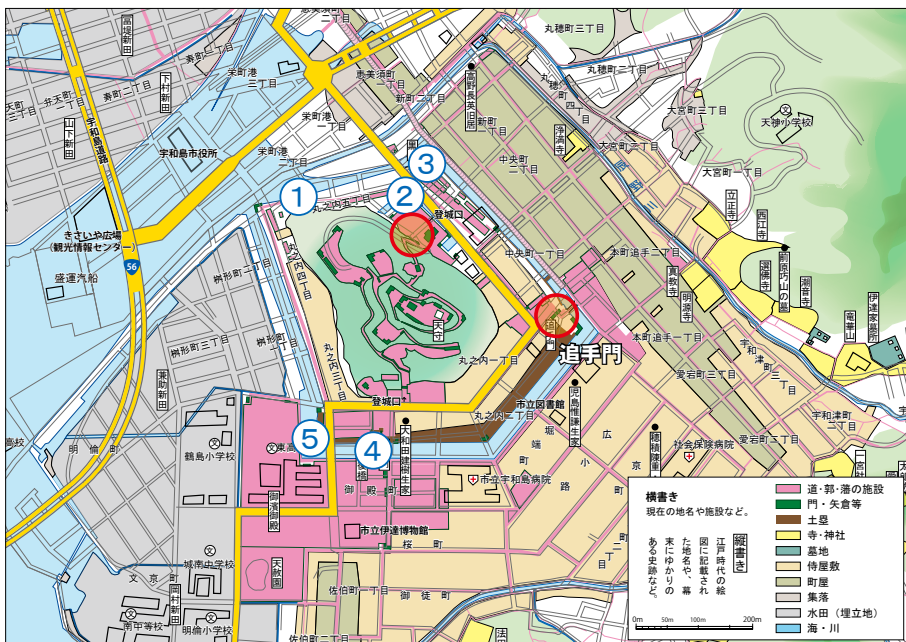
【その他】現地が狭いため、30名程度のグループに分けて、随時ご案内いたします。参加者多数の場合は、少しお待ちいただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## ◆登城道の一部を通行止めになっています

城山中腹の児童公園にある公衆トイレを、汲み取り式から水洗式にする工事をしています。その下水配管を桑折長屋門から児童公園までの間の車道に設置するため、8月末まで、この区間を通行止めとさせていただきます。この区間の迂回路は井戸丸経由となりますので、ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

## ◆堀のあった風景

明治ごろまでは、城山の周辺には堀が残っていました。そのころに撮影された写真を教育委員会で所蔵していますが、今回そのいくつかを紹介しします。今の地図と幕末ごろの絵図を重ねた地図にそれぞれの写真の番号を入れてみました。現地にはその面影は全くありませんが、ウォーキングなど近くに立ち寄られた際に、かつての堀のあった風景に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



① 筈(はず) 矢倉(年不詳)  
 松下釣具さんの駐車場のあたりです



② 潮見矢倉(明治42年以前)  
 消防署のあたりです



⑤ 材木蔵角矢倉跡(大正2年)  
 手前の堀は東高のグラウンドのあたりです



④ 搦手(からめて)門と豊後橋(大正2年以前)  
 松林眼科さんのあたりです



③ 黒門矢倉と黒門(明治42年以前)  
 保木ロビルさんのあたりです

## ■ 問合せ先

教育委員会 文化課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 bunka@city.uwajima.lg.jp